

# I. 調査要領

## 1. 調査時点及び調査対象期間

(1)調査時点 平成 21 年 10 月 1 日

(2)調査対象期間 平成 21 年 7 月～9 月期の実績および平成 21 年 10 月～12 月期の見通しについて調査した。

## 2. 調査対象

当所会員企業を対象に、商業＋食品業部会、水産業部会、機械工業部会、建設業部会、観光・サービス業＋諸業部会より各 30 社、計 150 社を抽出し郵送により調査した。

## 3. 回収状況

	対象企業数	回答企業数	回 答 率
商業＋食品業部会	30 社	17 社	56.7%
水産業部会	30 社	16 社	53.3%
機械工業部会	30 社	18 社	60.0%
建設業部会	30 社	18 社	60.0%
観光・サービス業＋諸業部会	30 社	20 社	56.7%
合 計	150 社	89 件	59.3%

注) 本調査結果の中で、「D・I」値とある記号は、ディフュージョン・インデックス（景気動向指数）の略で、各調査項目についての増加（好転・上昇）企業割合から減少（悪化・低下）企業割合を差し引いた値（景気動向指数）を示す。

## Ⅱ. 概 況

－業況は前期より悪化、次期もさらに悪化の見込み－

### 1. 全体の動き(業況)

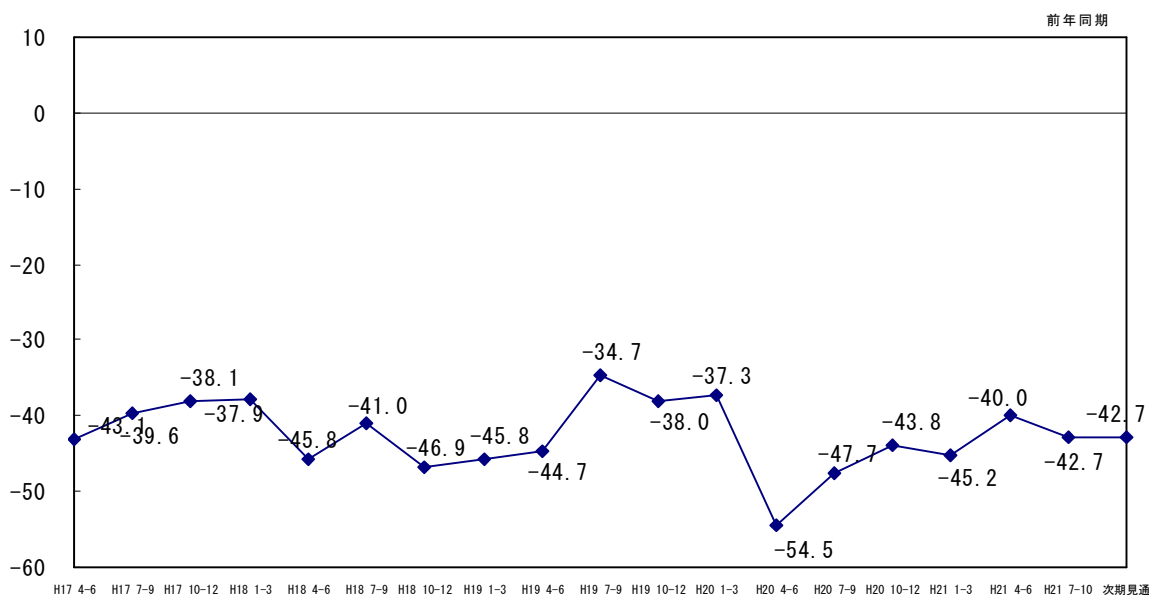
四半期毎に実施している中小企業景況調査の**今期(平成21年7月～9月)の全業種平均DI値**(「好転」と答えた企業と「悪化」と答えた企業の割合の差)は、**前年同期比△42.7**と前回調査時の△40.0より**2.7ポイント悪化**しました。もみあいマイナス40前後で推移し、今期業況は横ばい状態という結果になっております。しかしながら、各業種の各業況値を鑑みますと、全ての業種がマイナス水準であることに変わりなく、市内経済を取り巻く経営環境は依然厳しい状況が続いていると見受けられます。当所としても年末から来年3月まで非常に厳しい状況が続いていく傾向が強いのではないかと考えております。

部会別で前年同期比ベースをみると、商業食品業[前期△40.9→今期△35.3]、水産業[前期△27.3→今期△31.3]、機械工業[前期△28.6→今期△50.0]、建設業[前期△44.0→今期△33.3]、観光サービス諸業[前期△56.0→今期△60.0]となりました。建設業だけが繁忙期ということもあり、仕事が若干上向きであった兆しが見られるものの、商業食品業は夏が暑くなかったこと等により売上が伸びず、業況はあまり改善していません。また水産業は魚価の低迷や水揚げの減少などにより若干悪化、機械工業はここにきて前期の自動車減税効果が落ち着いたこともあり悪化、観光サービス諸業においては、今期もさらに厳しい数字が続いておりさえない状況となっています。景気悪化で全体的に意見が少なくなっている傾向にあると思われま

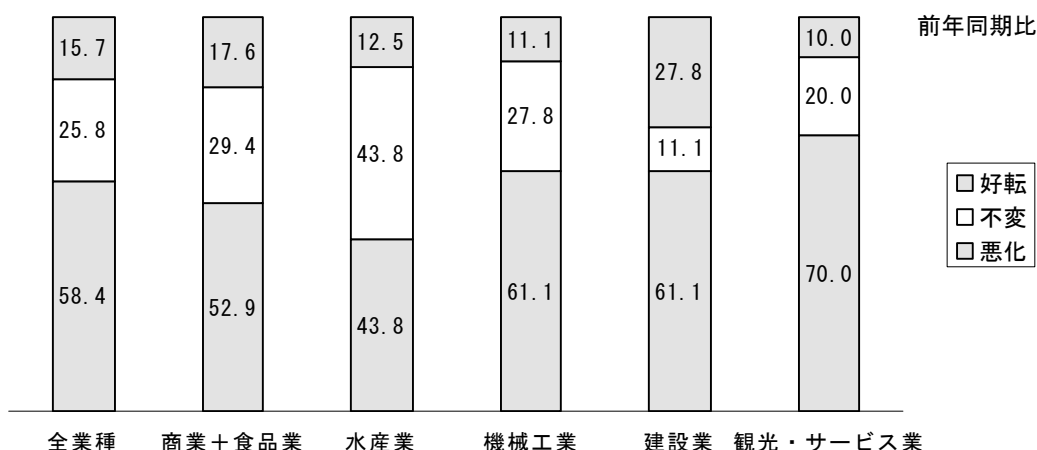
**来期(平成21年10月～12月)**については、今期と比べて**業況判断DIは、ほぼ横ばい**になるとの見通しが寄せられ、特に全体的なDI悪化の影響を直接受ける観光サービス業諸業においては、これから繁忙期を迎える年末にむけて業況回復の期待を持ちたいところですが、消費者の財布のひもが固いうちは、苦しい状況が続くとの見方となっています。業種の中でも唯一水産業だけが見通しを改善するという判断で動いておりますが、こちらは最後の追い込みのほたてがなんとか平年並なことと、不漁とされていたサケ漁も10月には豊漁と報道され、魚価単価も高いこともあり順調に推移するのではないかと見られています。

### 紋別商工会議所 景気動向調査(業況の推移)

(好転－悪化)



## 今期の業況（前年同期比）



経営上の問題点としては、需要の停滞がどの業種にも共通しており、人口の減少を不安視する回答や景気が悪くなって先が見えないなどの意見が増えてきており、特にデフレ傾向にある全体的な商品価格安傾向にともなう小売販売業等の売上減少を心配していることが観えます。

### ■部会別の動向

#### 【商業・食品業部会】 [業況判断DI値（前年同期比）△35.3（前期△40.9、来期見通し△35.3）]

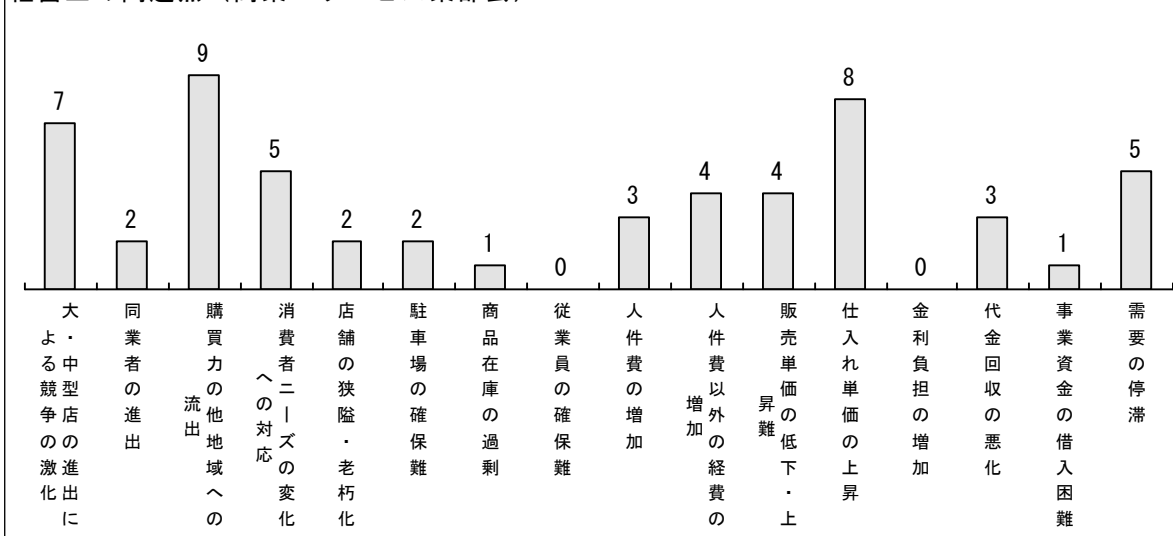
業況DI値（前年同期比）は、依然としてマイナス値が続き厳しい状況で推移しておりますが、前期よりも業況値は若干改善しています。今年の夏（7～9月）は、気温もあまり上がらず景気の悪さもあり、財布のひもも固く消費マインドの回復は見てきません。次期の見通しについては、年末商戦にむけて回復を期待したいところですが、あまり変わらない状況との見通しとなっております。エコポイントの効果が今ひとつ見えていない状況である。

経営上の問題点としては「購買力の他地域への流出」「仕入れ単価の上昇」を訴える声が多い。

#### 《業界の問題点等》

- ・ 高齢の常連客がヘルパーさんと買い物に来ました。必要な商品は1点だけのようなのですが、他の商品も手に取った時、「ここも店の商品は高価だから、今使う分だけにしなさい」と商品に戻しました。50歳前半のヘルパーさんで、知っている人だけにとってもショックでした。価格は下げている、大型店の様にはいきません。（小売）
- ・ 卸商社の北海道内からの撤退。流通システムの変化（物流センターの巨大化）による売りたい商材と欲しい商材とのギャップ。パイの小さい商材の取扱い中止等。（小売）

#### 経営上の問題点（商業・サービス業部会）



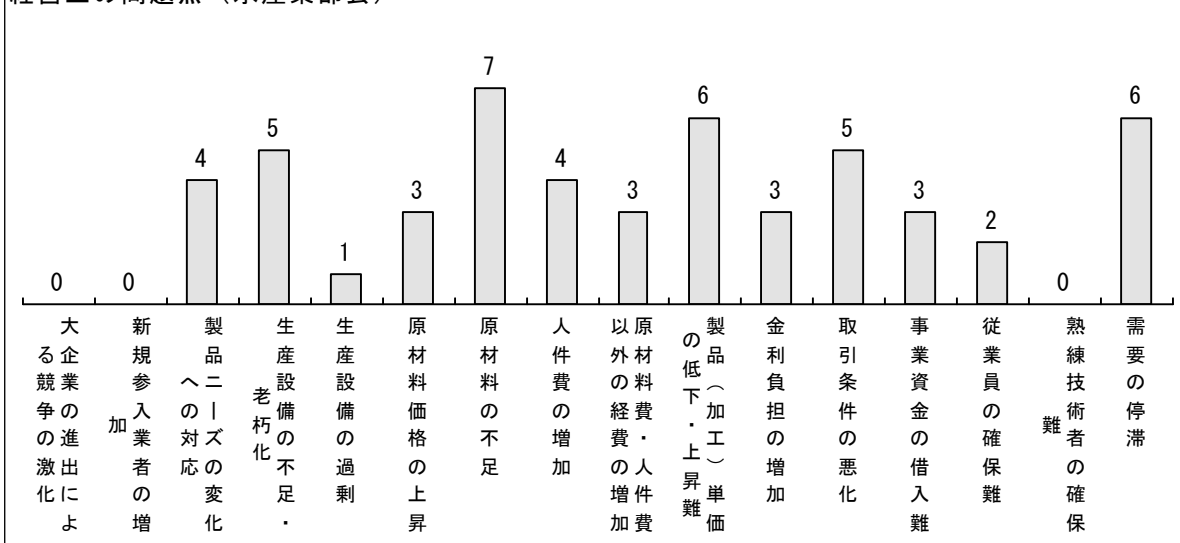
**【水産業部会】** [業況判断DI値（前年同期比）△31.3（前期△27.3、来期見通し△12.5）]

業況判断DI値（前年同期比）は若干悪化していますが、今期の水産業界については、前期に比べると若干業況値は悪化した鮭マスの水揚げが少なく先行き不安だったが、9月10月とサケ漁が豊漁であると新聞報道もあり、なおかつ取引単価も高いことから、冬を前にして最盛期をむかえる今後の回復が期待されており、来期の見通しについては多少良くなるだろうとの見通しを立てております。ただ今年最高の輸入量となったカニの価格がダウンして取引額は昨年よりも10億円以上減少したと聞いております。経営上の問題点としては、「原材料の不足」「需要の停滞」「製品単価の低下上昇難」となっており原材料不足はホタテが足りない（噴火湾のホタテがダメになった影響）という話を聞いております。

**《業界の問題点等》**

- ・原材料が不足しておりカニなどの単価が下がっていて厳しい（水産加工）
- ・これからのサケ漁に期待しているところである。（水産加工）

経営上の問題点（水産業部会）



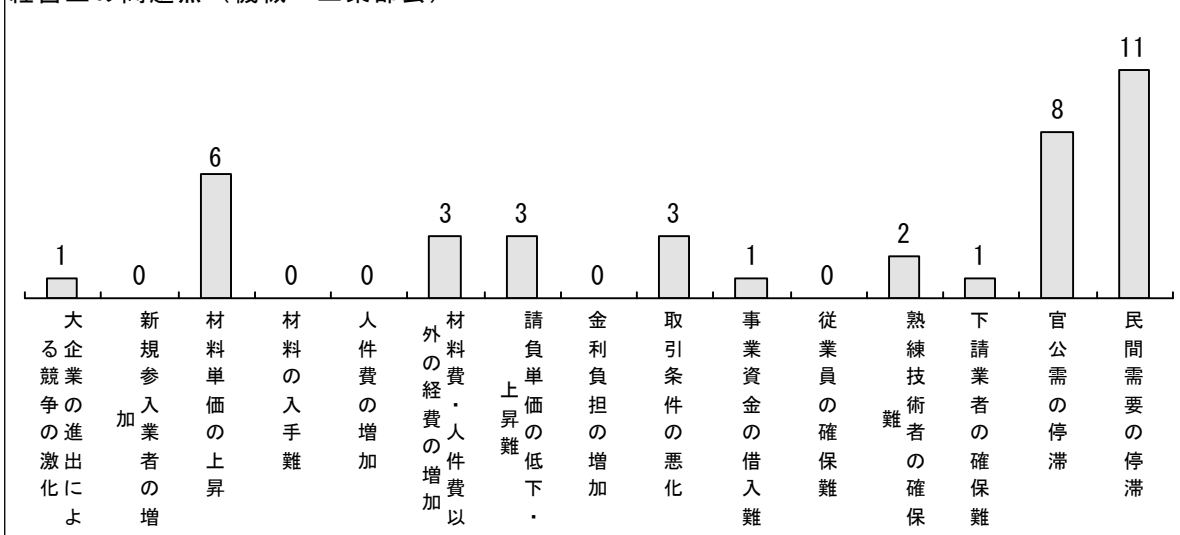
**【機械・工業部会】** [業況判断DI値（前年同期比）△50.0（前期△28.6、来期見通し△61.1）]

業況判断DI値（前年同期比）は、前期よりも悪化しております。マイナス水準は50%となっており、やはり自動車減税効果が薄れた影響が出てきているものと思われ、先行きの見通しについても非常に悪い数字がでております。経営上の問題点として、「民間需要の低下」や「官公需の停滞」、「材料単価の上昇」を訴える声が多く寄せられている。

**《業界の問題点等》**

- ・経営に全く明るい展望が見出せず、企業の再構築が不可欠と感じています。（製造機械）

経営上の問題点（機械・工業部会）

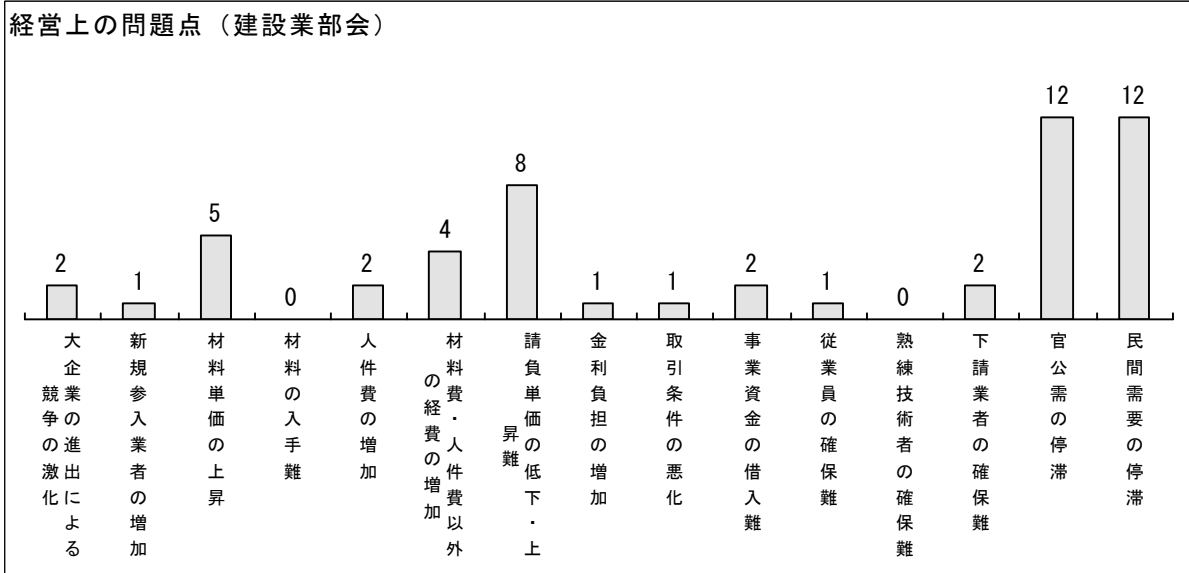


**【建設業部会】** [業況判断DI値(前年同期比)△33.3(前期△44.0、来期見通し△38.9)]

業況判断DI値(前年同期比)は夏の繁忙期を迎え、自民党麻生政権が最後に残した道路整備等の公共工事が最盛期を迎え、少し改善した状況となっています。しかしながら政権交代後の来期への見通しは暗く、冬を前に厳しい状況は続いていきます。経営上の問題点としては、「民間・官公需の停滞」、「請負単価の低下・上昇難」、「材料単価の上昇」など経営収支を圧迫させる内容となっております。

**《業界の問題点等》**

- ・仕事が少なくなった。(建設)
- ・新築着工が少ない。決まっても着工までの時間が長い。(電気工事)



**【観光・サービス業・諸業部会】** [業況判断DI値(前年同期比)△60.0(前期△56.0、来期見通し△60.0)]

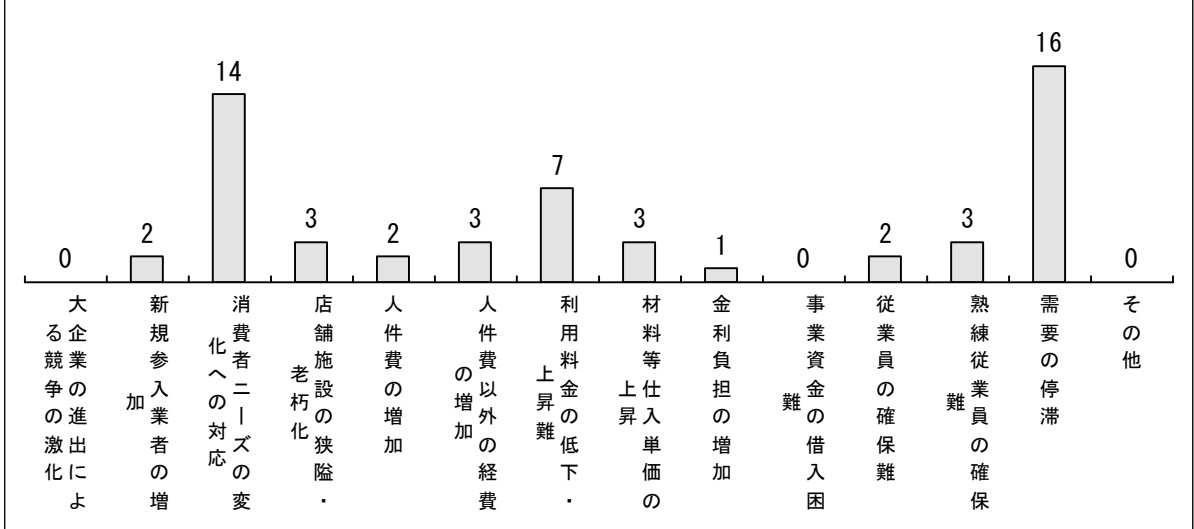
業況判断DI値(前年同期比)は横ばい状況のまま悪化しております。来期も依然マイナス水準が変わらず大きな改善は見通せませんが、年末年始の繁忙期に向けて若干でも数値が改善されることを期待しております。

経営上の問題点としては、客足の減少からくる「需要の停滞」という声が多く寄せられているほか、「消費者ニーズへの変化への対応」という声も寄せられています。

**《業界の問題点等》**

- ・消費者の嗜好の多様化。5人一緒に来店して5品目のオーダーをいう様な傾向が特に気になる。商品を提供するまでの時間がかかってしまう。手間ばかりかかって、利益が減少する。専門店化しなければやっていけないのか…?(飲食)
- ・飲食について、後を継ぐ人がいない。労働時間が長い。(飲食)
  - ・カニで有名な紋別なので、当方でもお客様に大満足してもらう為、大型水槽で常に活ガニを使用していますが、単価3000円~5000円が不況のせいか、ためらうお客様が多い。(飲食)

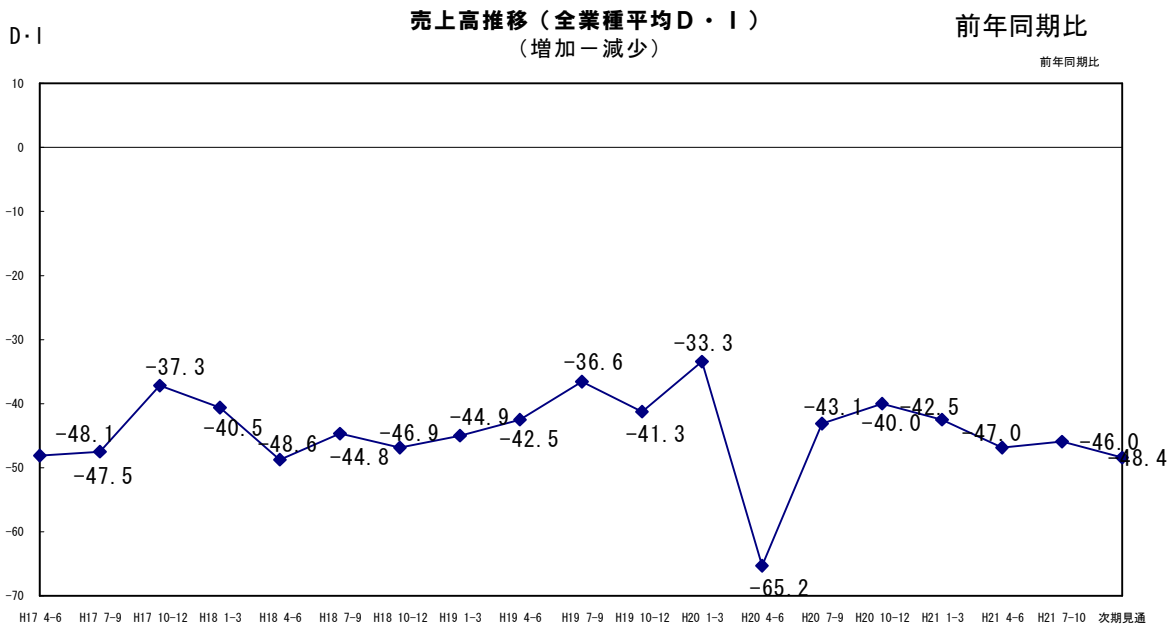
経営上の問題点（観光・サービス業部会）



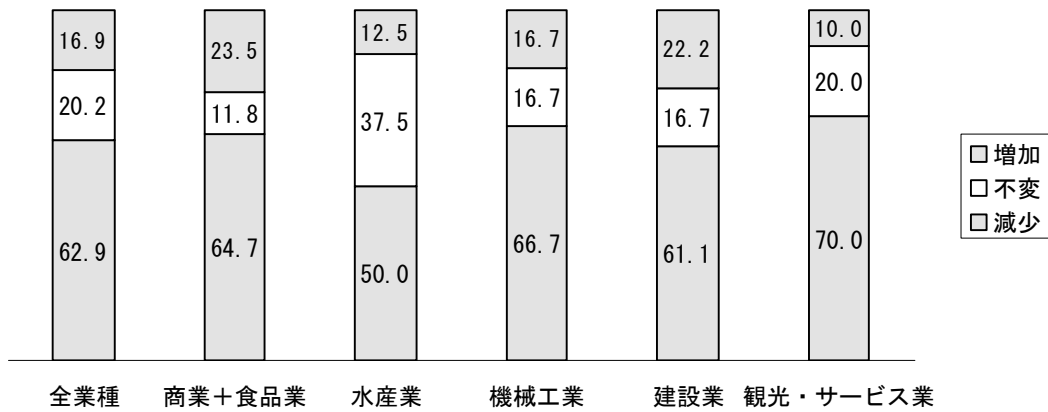
2. 今期の動向

(1) 今期の売上高・生産高

【前年同期比】（平成20年7月～9月期の水準と比較した今期の売上高）



### 今期の売上高・生産高（前年同期比）

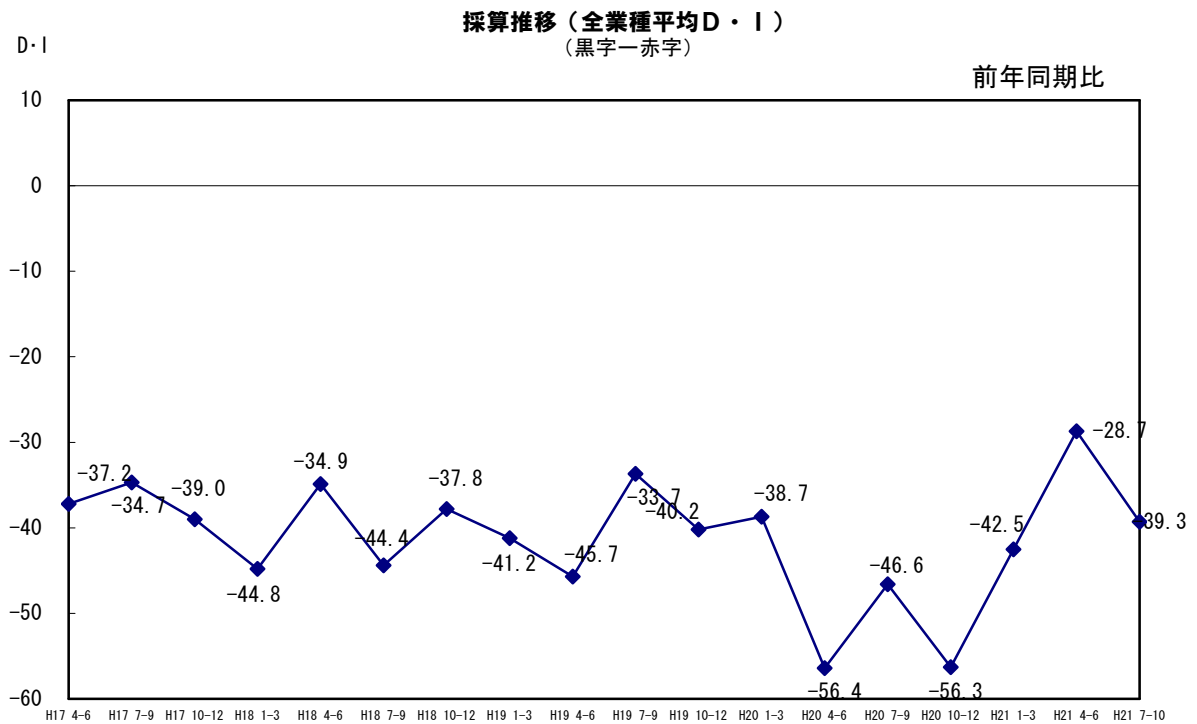


全業種平均でDI値△46.0〔前回調査時(平成21年4～6月期△47.0)より1.0ポイント改善。〕

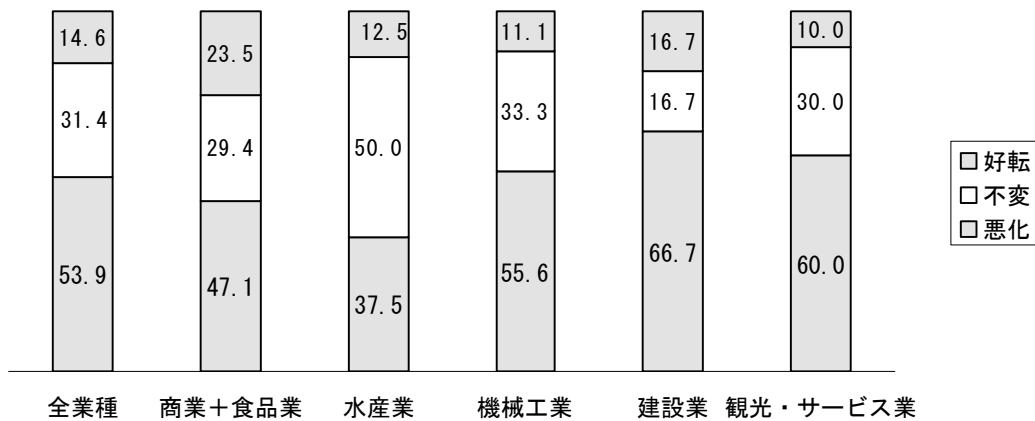
〔部会別DI値〕 商業・食品業〔前回△40.9→△41.2〕、水産業〔前回△45.5→△37.5〕  
 機械工業〔前回△33.3→△50.0〕、建設業〔前回△52.0→△38.9〕  
 観光・サービス業〔前回△60.0→△60.0〕

### (2) 今期の採算

【前年同期比】（平成20年7月～9月期の水準と比較した今期の採算水準）



### 今期の採算（前年同期比）

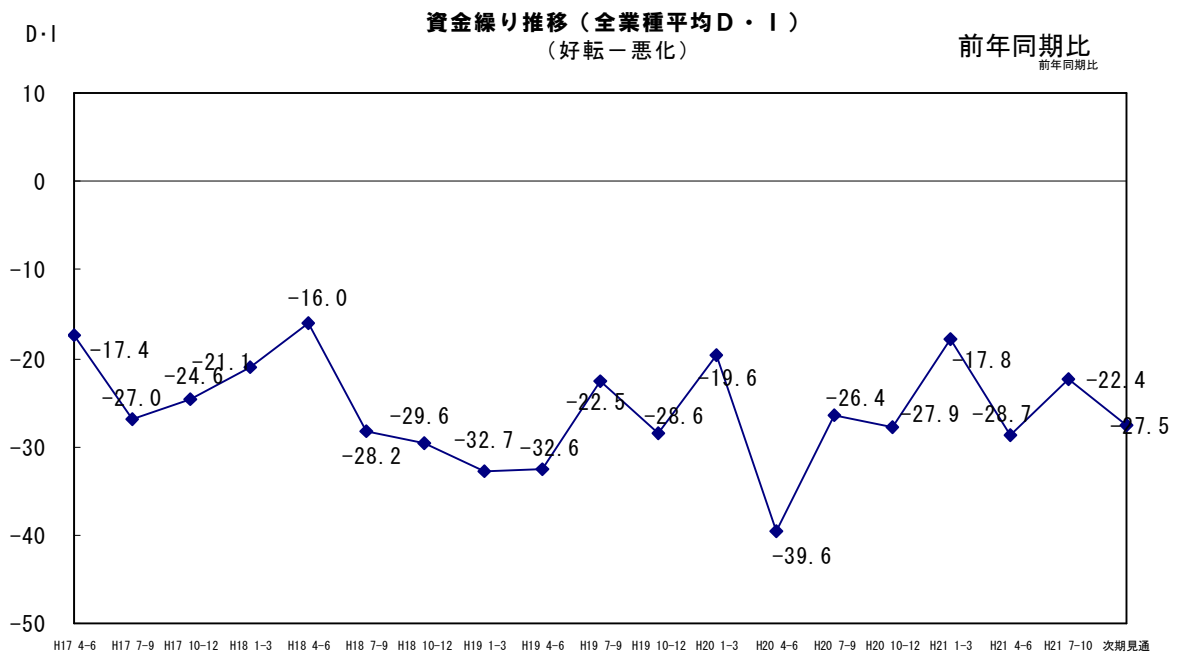


全業種平均でDI値△39.3〔前回調査時（平成21年4～6月期△28.7）より10.6ポイント悪化〕

〔部会別DI値〕 商業・食品業〔前回△27.3→△23.5〕、水産業〔前回△66.7→△25.0〕  
 機械工業〔前回△19.0→△44.4〕、建設業〔前回△33.3→△50.0〕  
 観光・サービス業〔前回△40.0→△50.0〕

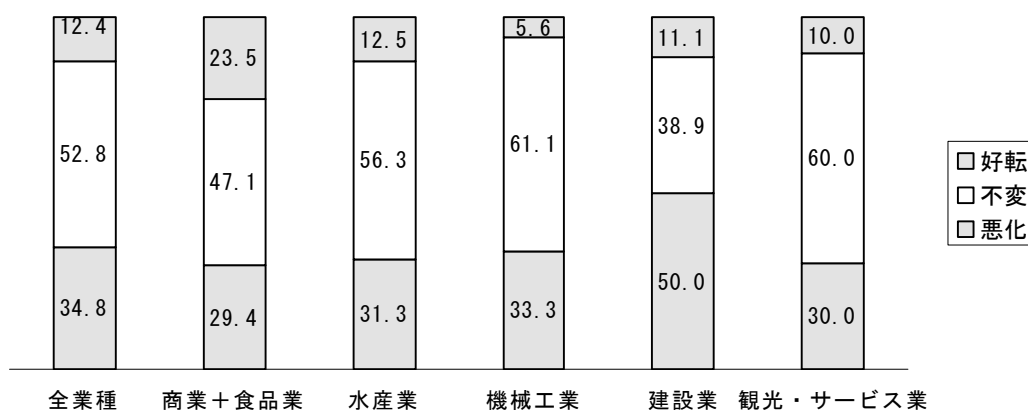
### (3) 今期の資金繰り

【前年同期比】（平成20年7月～9月期の水準と比較した今期の資金繰り）





### 今期の資金繰り（前年同期比）



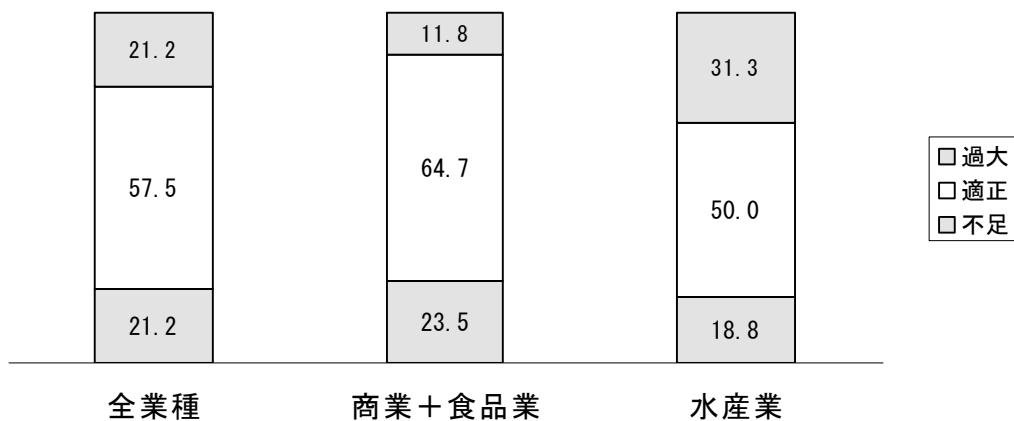
全業種平均でDI値 $\Delta 22.4$ 〔前回調査時（平成21年4～6月期 $\Delta 28.7$ ）より6.3ポイント改善〕

[部会別DI値] 商業・食品業〔前回 $\Delta 22.7 \rightarrow \Delta 5.9$ 〕、水産業〔前回 $\Delta 9.1 \rightarrow \Delta 18.8$ 〕  
 機械工業〔前回 $\Delta 28.6 \rightarrow \Delta 27.8$ 〕、建設業〔前回 $\Delta 56.0 \rightarrow \Delta 38.9$ 〕  
 観光・サービス業〔前回 $\Delta 24.0 \rightarrow \Delta 20.0$ 〕

### (4) 今期の在庫水準

【前年同期比】（平成20年7月～9月期の水準と比較した今期の在庫水準）

### 今期の在庫水準（前年同期比）

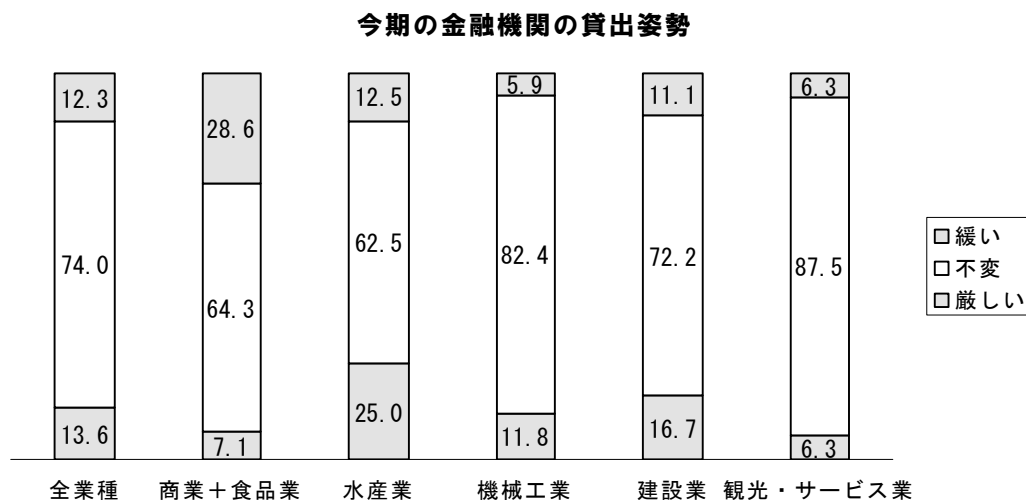


全業種平均でDI値 $0.0$ 〔前回調査時（平成21年4～6月期 $\Delta 9.3$ ）より9.3ポイント在庫増加〕

[部会別DI値] 商業・食品業〔前回 $\Delta 9.3 \rightarrow \Delta 11.8$ 〕、水産業〔前回 $\Delta 9.5 \rightarrow +12.5$ 〕

## (5) 今期の金融機関の貸出姿勢

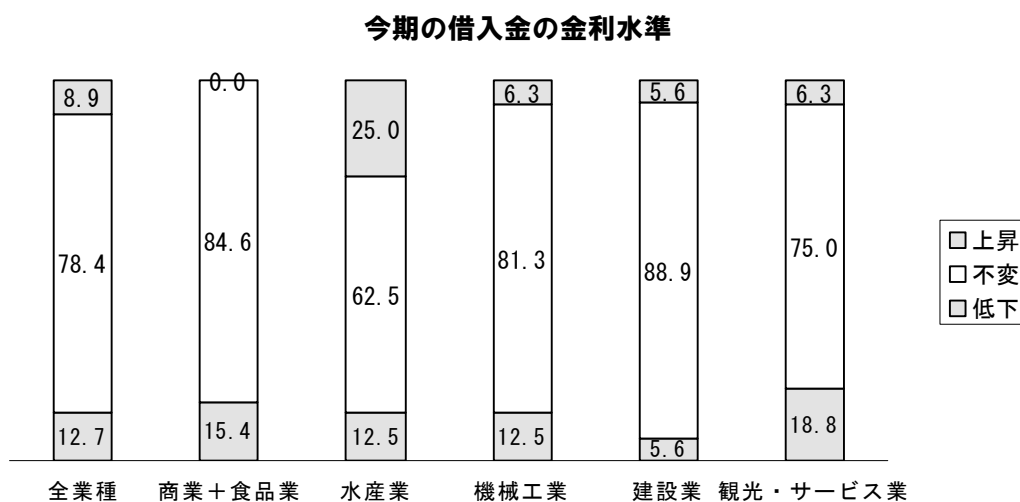
【前年同期比】（平成20年7月～9月期の水準と比較した今期の金融機関の貸出対応）



全業種平均で $\Delta 1.3$ ポイント。商業食品業  $21.4$  水産業 $\Delta 12.5$  機械工業 $\Delta 5.9$  建設業 $\Delta 5.6$  観光サービス業諸業  $0.0$

## (6) 今期の借入金の金利水準

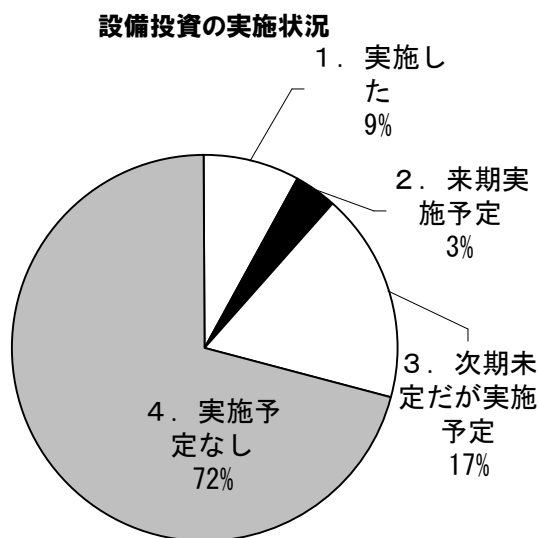
【前年同期比】（平成20年7月～9月期の水準と比較した今期の借入金の金利水準）



全業種平均で $\Delta 3.8$ 。商業食品業 $\Delta 15.4$  水産業 $+12.5$  機械工業 $\Delta 6.3$  建設業  $0.0$  観光サービス $\Delta 12.5$ 。(金利水準が上昇しているとの回答比率が多くプラスの数字となっています)

## (7) 設備投資の実施状況

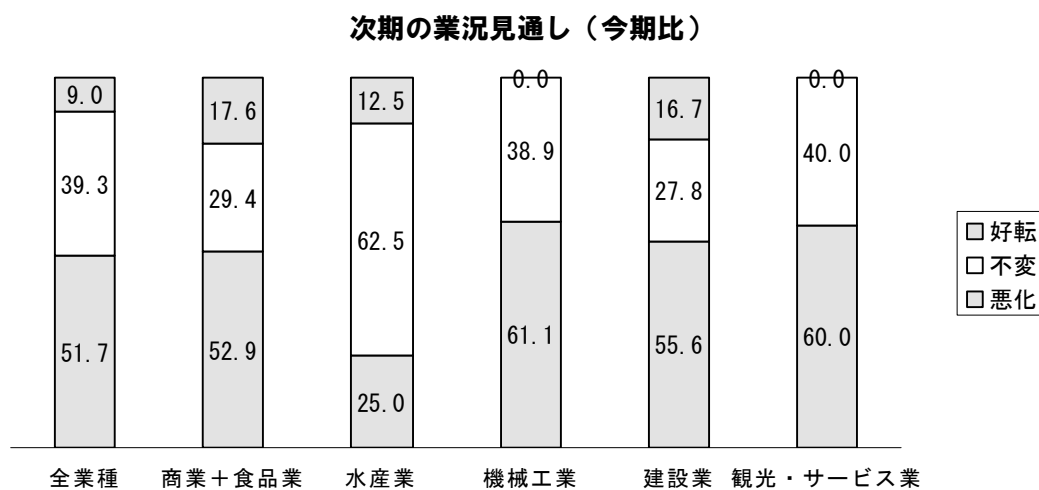
今期の店舗・社屋・工場等への設備投資実施状況について



## 3. 来期の見通し

### (1) 来期の業況

【今期比】（平成 21 年 7 月～9 月期の水準と比較した来期の業況見通し）

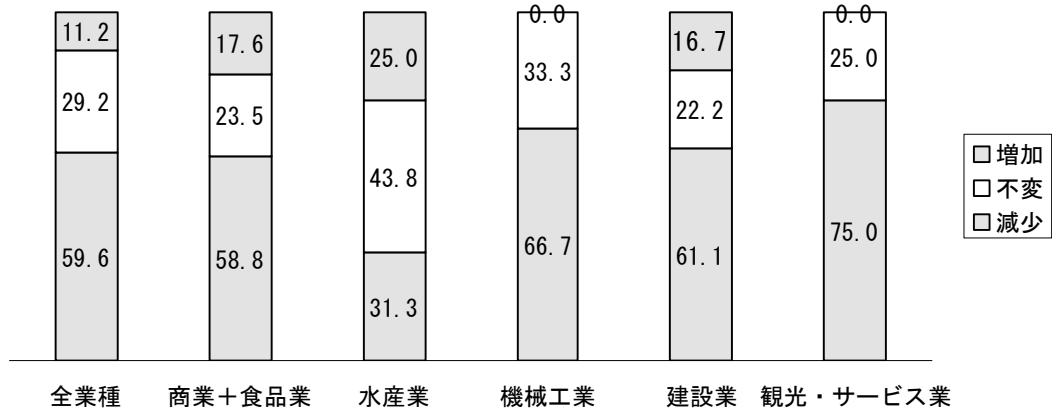


全業種平均 DI 値  $\Delta 42.7$  [今期の業況（前年同期比  $\Delta 42.7$ ）より 0.0 ポイント横ばい]

(2) 来期の売上高・生産高

【今期比】（平成 21 年 7 月～9 月期の水準と比較した来期の売上高・生産高見通し）

次期の売上高・生産高見通し（今期比）

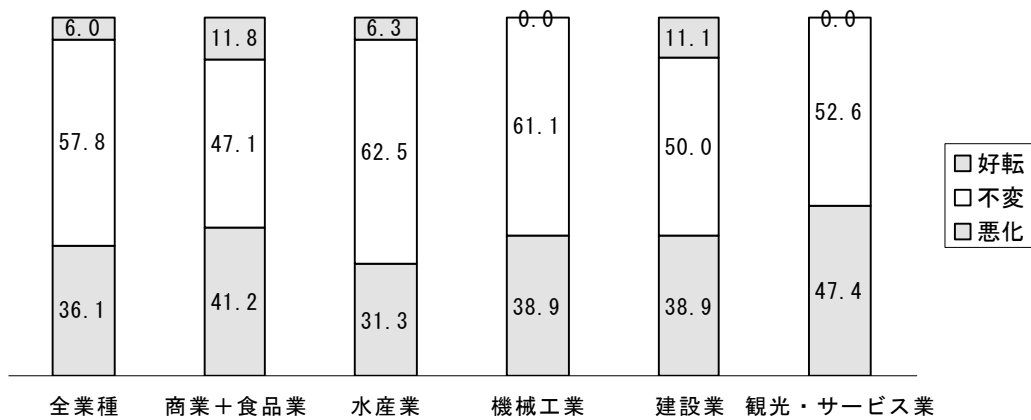


全業種平均 DI 値  $\Delta 48.4$  [今期の売上高・生産高（前年同期比 $\Delta 46.0$ ）より 2.4 ポイント悪化の見通し]

(3) 来期の資金繰り見通し

【今期比】（平成 21 年 7 月～9 月期の水準と比較した来期の資金繰り見通し）

次期の資金繰り見通し（今期比）



全業種平均 DI 値  $\Delta 30.1$  [今期の資金繰り（前年同期比 $\Delta 22.4$ ）より 7.7 ポイント悪化の見通し]

### Ⅲ. 各 指 標

		全 体	商 業 食 品 業	水 産 業	機 械 工 業	建 設 業	観 光 サ ー ビ ス ・ 諸 業
業況判断 D・I	今期実績	△42.7	△35.3	△31.3	△50.0	△33.3	△60.0
	来期見通し	△42.7	△35.3	△12.5	△61.1	△38.9	△60.0
売上 D・I	今期実績	△46.0	△41.2	△37.5	△50.0	△38.9	△60.0
	来期見通し	△48.4	△41.2	△ 6.3	△66.7	△44.4	△75.0
在庫 D・I	今期実績	0.0	△11.8	+12.5	—	—	—
	来期見通し	—	—	—	—	—	—
採算 D・I	今期実績	△39.3	△23.5	△25.0	△44.4	△50.0	△50.0
	来期見通し	—	—	—	—	—	—
資金繰り D・I	今期実績	△22.4	△ 5.9	△18.8	△27.8	△38.9	△20.0
	来期見通し	△30.1	△29.4	△25.0	△38.9	△27.8	△47.4
金融機関 貸出姿勢 D・I	今期実績	△1.3	+21.4	△12.5	△ 5.9	△ 5.6	0.0
	来期見通し	—	—	—	—	—	—
借入金 金利水準 D・I	今期実績	△ 3.8	△15.4	+12.5	△ 6.3	0.0	△12.5
	来期見通し	—	—	—	—	—	—

※借入金金利水準 D・I 値のプラス値については、借入金利が上昇したと感じた回答が多い時にプラス値で表示されます。